～子どもにえがおを、みやぎに元気を～

平成23年度 作並かっぱ祭り

7月23日(土)

今年で4回目となる「作並かっぱ祭り」は、直前までの猛暑から一転、真夏らしからぬ天候の中での実施となりましたが、過去最高となる500名以上もの方が、会場に足を運んでくださいました。
震災の影響により、何かと楽しむ機会が減っている子どもたちに、思いっきり川遊びを楽しんでもらいました。

↑まるで魚になったように、泳ぎ回る子どもたち。流れてはスタートに戻り、再び流れては、何度も何度も繰り返し泳いでいました。

→最初は浅いところから、そして徐々に深いところへ。前の人に捕まっているので、慣れない川歩きも上手にできますが、深みに差し掛かると・・・「わぁ～冷た～い」とこの表情。

←最初はやみくもに追っかけて魚に触ることすらできませんが、コツをつかめばこのとおり。捕まえたニジマスは、すぐに炭火焼でいただきました。

→水中をのぞけば、ヤマメの稚魚が泳いでいるのを見ることができます。網で捕まえようと必死で追いかけますが、そこは俊敏なヤマメ、捕まるわけがありません。自然界で生き抜くスピードを体験することができました。

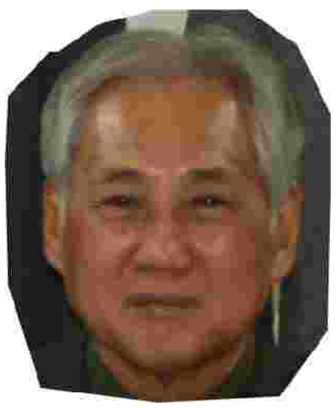
↑地味に見えても、やりだすととても楽しい石ころアート。石の形からあれこれイメージを膨らませ、大人では発想できない作品が次々と生まれました。

↑見事に的中した子どもには仙台ハイランドや広瀬川ボートくらぶの優待券が、外れた子も景品がもらえ、そのうえスイカも食べられるという大人気プログラム。

↑イワナ、ヤマメ、アユ、カジカ、アブラハヤ、ヘビトンボ、カワゲラ、トビケラ、ヤゴ、カジカガエル・・・広瀬川上流部に住むいきものを展示したところ、「何これ～」「こんなのいるんだ～」と楽しんでもらえました。

→小さな容器にニジマスを入れて、幼児用のタッチプールを用意しました。急きょ行ったのですが、これが好評で、つかみどりはできないけどちょっと触りたいという、幼児に大人気のプログラムになりました。

実行委員長から一言



子どもの頃、夏の遊びと言えば川遊びでした。家のそばを流れる鮭川(最上川の支流)でよく魚とりをしました。なかでも、岩場に潜むサクラマスを見つけて、ヤスでついたまでは良かったのですが、あたふたしているうちに取り逃がした経験を今でも忘れることができません。幼少時代の川遊びの経験は、大人になっても忘れることがなく、次世代の子どもたちに遊びを引き継ぐことや、環境を図る力が養われます。
もっともっと子どもたちが川に親しめる機会をつくっていきたいと思います。

作並かっぱ祭りは以下の団体・企業の協力で実施されました

・・・